

令和元年度 沖縄県振興審議会 第4回学術・人づくり部会議事要旨

令和元年10月31日（木）09：30～11：15

議題【学力向上の取り組み】について

- （第3章634頁39行）名桜大学内に北部教育研修センターを設立し、現職教員の研修等が精力的になされており、子どもたちの学力向上にかかわる施策を展開しております。また、大学の中に研修センターがあるのは県内初めてで、国内でも非常に珍しい形態でやっておりますので、その辺の記載を検討できないか。

- ボランティアについて、事務局の考え方等で琉大の学生等記述は削除されておりますが、むしろ子どもの学力向上と子どもの居場所関係等については、コンソーシアムのほうで、学生のボランティアを離島も含めて精力的に展開しています。
子どもの貧困対策事業の一環で、学生はかなりの数が沖縄県内で展開してるため、総点検報告書への記載を検討できないでしょうか。

- 沖国も宜野湾市と連携して随分と学内で学生が支援活動をしておりますので、むしろこれは書いたほうがいいのではないかと。

議題【学校教育】について

- 今まで学校教育の中で学校と地域、学校と産業界の連携から、次の教育課程の改革では、もう一段階踏み込んだ連携が確実に必要になるので、総点検の中でこういうことを一旦記しておいて、次の計画に一段踏み込んだ計画がなされることは重要と思っております。

議題【中学校の学力が伸び悩んでいる要因の分析】について

- 以前、学力向上の箇所、中学校が伸び悩んでいるということで、中学校の部活動について少し分析をしてみたらどうかという提案をしたが、義務教育課あたりで中学校の部活動関連がどういう影響があるのか、中学校でなぜ落ち込んでいくのかということの分析の中で、部活の関連性を少し検討されたらどうか。

議題【県民意識調査の表現】について

- （第2章43頁28行）43頁の図表を見ると、横ばい状態であり、今後とも取組が必要ではないか。

議題【指定文化財】について

- （第2章44頁8行）「…と約4倍に増加している。」と記載されているが、それは市町村での指定文化財の取り組みが積極的になされたことによるものであるため、市町村の努力を評価すべきではないか。

議題【県民意識調査の表現】について

- （第2章50頁20行）50頁の図表を見ると、横ばい状態であり、今後とも取組が必要ではないか。

議題【地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成】について

- （第3章626頁22行）「沖縄らしい個性を持った人づくりの推進」の中で「地域を誇りに思う心、社会で生きていく上で必要な能力等を醸成するとともに、家庭や地域の教育機能の充実を図る必要がある。」と記載されているが、沖縄らしいとは「ヌチルタカラ」「ユイマール」「イチャリバチョーデー」の心だと思うので、「イチャリバチョーデー」や「インクルーシブ教育」に見合う表現を入れた方がよいのではないか。

- （第3章626頁4行）626頁の上段に沖縄らしい個性という言葉の使い方がありますが、「地域への誇りを持ち、社会の一員として」と、これを指しているのですか。それともこれにプラスして、いわゆるその人なりの成長、発達ということを考えているのでしょうか。

厳密な定義を求めておりませんが、多くの人が抱き、理解できる共通項みたいなものを例示してもらいたい。

- 沖縄の個性の一般論というと、ぬちどう宝や、イチャリバチョーデー、そしてユイマール精神など、そういうのを含めて沖縄の心と言っているわけであり、皆さんいろいろ捉え方があるわけです。

沖縄の方言で言っていることなのか、あるいは県として指標を持っているのか、その辺ははっきりさせたほうがいいのではないのでしょうか。

議題【地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成】について

- （第3章627頁）627頁と関わって、地域運営学校（コミュニティスクール）についての説明が見当たらないため、追加すべきではないか。

- 教育関係を読むと、教育イコール学校教育という形で記載されております。

社会教育、地域社会教育についても沖縄はおもしろい実践があり、公民館を拠点とした地域づくりで学校と連携をして地域の子どもたちの健全育成にかかわっていています。、かなり全国的にも有名な実践活動を行っておりますので、地域の中で行われている部分も反映させる方向も必要ではないか。

○ 委員からの意見で、「627頁に地域運営学校（コミュニティスクール）についての説明が見当たらないため追加すべきではないか。」の事務局の考え方で、「640頁に追記」とあるが、ページの書かれ方によって、今後沖縄県内の教育現場が全部学校教育関係に集中してしまうのか、それとも社会教育と学校教育がどう連携していくのかというようなことに大きくかかわってくると思いますので、そのあたりは検討をお願いしたい。

○ コミュニティスクールの事業と地域学校協働活動の事業は、もともと文科省の所管課や学校教育課マター・生涯学習課マターで推進されてきましたが、この数年で文科省の所管課がまとまりました、しかし、市町村や都道府県単位ではまだまとまりきれず、生涯学習課と学校教育課で運営されていることが課題になっています。

時代の変化に伴って新しく出てきた課題としての取り扱いが可能であれば、改めて教育改革やこれからの教育内容を含めた行政内も含めた体制づくりの再構築も今後課題になってくると、コミュニティスクールの推進事業では感じます。この中で次への課題として扱える部分がもしあるのであれば記載をお願いしたい。

議題【家庭・地域の教育機能の充実】について

○ （第3章628頁39行）「県立青少年の家について、指定管理者制度を段階的に導入し、民間のノウハウを生かした体験活動の充実等、利用者ニーズに対応した個性的な事業を実施するとともに、…」とあり、指定管理者制度を段階的に導入したことはわかります。それがうまくいっているのかどうか、その辺をどういうふうに評価、検証しているのでしょうか。

○ （第3章629頁）成果指標の社会教育施設利用者数は県の社会教育施設の利用者数というところか。それとも市町村も含めているのか。

議題【社会教育主事】について

○ 本県においても市町村の社会教育主事の配置率が低下しているとなっているが、本県の社会教育主事の配置状況と県としての対応について聞きたい。

- 社会活動として社会教育主事というのは非常に重要なポジションだと思うが、国庫補助が廃止されていますので、それについて県単での対応や、1万人以上の市については設置義務があったのではないかと思います。このあたりはどうでしょうか。
- 社会教育主事の名称を社会教育士という形で文科省から名称の変更の通知があったと思うが、社会教育主事の名称で総点検報告書に記載しているのでしょうか。

議題【県立図書館】について

- 県立図書館を利用したくても、駐車料金が高く、使いづらい状況があるため、利用者目線での検討をお願いしたい。
- 633頁に図書館機能の拡充と書いてあって、「さらに」の段落のところで、そこに移転開館したということで終わっていますけれども、移転については県民の間でもさまざまな御意見があったかと思います。
旧施設と新施設の利用者数を同じ月で比較するとか、また、移転して利用者は増えたのでしょうか。

議題【沖縄戦跡の保存】について

- 沖縄戦跡の保存についてはどのような対応をしているのか。

議題【文化活動を支える人材】について

- (359頁関連)文化活動を支える人材をどのように活用していくのか、現時点での方策の説明をお聞きしたい。特に、有能な県立芸大の卒業生は、どのような場で自己の文化芸術能力を発揮しているのか、あるいは発揮できていないのか、その実態をお聞きしたい。
- 県立芸大の専攻学科によっては、恒常的に定員割れを起こしているところもあり、受験生がそこを卒業しても、就職あるいは卒業後、能力を発揮できる場がない。雇用の場を観光産業とつなげていくとか、若い才能を発揮できるような雇用の場を展開していかないと、入学者増にはつなげていかないのではないかなと考えるが、そのあたりはどうでしょうか。

議題【公文書館】について

- 公文書館に関してですが、355頁にデジタル化をしてインターネットで公開することによって、離島や遠隔地における資料の閲覧が可能となったという記述があります。公文書館については、この中ではあまり記述が見られないが、利用されている状況を記載したほうがよいのではない

いか。

議題【社会教育主事の配置】について

- 資格を持っていても教育委員会が配置しなければ社会教育主事にはならないので、制度が変わって社会教育士になっていく上で、今後社会教育士の活用とかも含めて考える必要があるということと、自治体の職員で、社会教育主事の資格を持っているけれども社会教育主事で配置されていない方々の活用の仕方とかも含めて、何か提案したり、促すようなものがあるといいと思う。

議題【伝統文化の保全継承及び新たな文化の創造】について

- 人材育成、そして基盤整備という点で言いますと、358頁の下のほうに記載されているが、「文化芸術の有識者や専門人材の目利きのもとで、支援する活動の選定や事後評価に基づく助言指導を行うアーツカウンシル機能を取り入れた支援体制を構築するなど、文化芸術活動を支える仕組みづくりに取り組んだ。」とあります。

その取り組みの中で、演奏するだけではなく、地域や社会に貢献し、一人も取りこぼさないような活動として芸術文化に取り組んでいる人材が育っていることを感じておりますので、次の振興計画でも新しい文化を創造する担い手の育成、環境整備に取り組んでいただきたい。

議題【総点検報告書（素案）の図表及び成果指標】について

- 44頁の文化財の指定状況(平成30年5月1日現在)の表がありますが、関連して355頁の成果指標の文化財指定件数は平成29年が現状値になっていますので、これは合わせていただけますでしょうか。
それと、44頁にあります最新のものが平成30年5月ですけれども、最新版にするときにどこまで新しい情報が反映されるのかなと思っています。那覇市の弁ヶ嶽が多分この5月の後に国の指定になっていたかと思うので、反映いただければと思います。

議題【生涯学習社会の実現】について

- （第3章633頁23頁）格差が相当広がっている中で、確かに経済的にゆとりがあり余暇が増えている方もいらっしゃるでしょうけれども、困窮し目標も持てないという方もかなり多くいると感じます。このあたりも視野に入れておかないと、課題設定が間違えると適切な対策ができないので、生涯学習社会の実現と言いながら、課題が本当にこれでいいのかなというところを疑問に思ったので、検討していただきたい。

議題【リカレント教育】について

- 次の策定のときに必要なと思いますが、今、世の中の的にはリカレン

ト教育ということで、公民館の利用が、本来ならば仕事をしている世代の方々が中心にやっていく時代に突入しているけれども、余暇が少ないとか時間が少ないというところもあるので、そこもぜひ課題として今回載せられるのであれば載せていただければと思います。

議題【他部会からの申し送り事項】について

- 図表や本文に掲載されている数値について、古いデータがあるため、可能であれば最新値に更新してはどうか。

- 第3章に掲載されている<主な成果指標>について、主なものだけでなく、全成果指標（再掲含む）を掲載してはどうか。

- 計画策定時から少しでも数値が伸びていれば「前進している」との表現になっているが、違和感がある。
「検証シート」で使用している判定基準を用いて、「達成」「達成見込」「進展」「進展遅れ」の表現に統一してはどうか。

議題【沖縄県の進学率】について

- 2回目のときに、沖縄県の進学率の問題が出ましたが、国の高等教育における就学支援新制度がスタートするというところで、高校、大学でもどのぐらいの学生が対象になるのかということで今手続きしを行っているところです。沖縄県の教育委員会でこれを行っているかと思いますが、この制度が導入されることにより、どのぐらい進学率がアップするのか、あるいはしないのか、そのあたりの検討はなされていますでしょうか。
授業料の減免、それから給付型奨学金の制度ということで、沖縄県の場合、特に進学率にかかわってくるかと関心を持っている方も多いと思います。何か見通しがありましたらお願いします。

その他

- なし

以 上